



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.1445 2025 年 4 月 7 日



2025 年度の事業年度を迎えて

一般社団法人電波産業会
事務局長 児玉 俊介

4 月 1 日から 2025 年度の事業年度に入りました。2024 年度は、様々な行事、イベント、会合等を含む事業活動がほぼコロナ禍以前に戻ったように感じられる 1 年でした。年度当初に計画した事業も概ね実施でき、これもひとえに会員の皆様のご協力、ご理解、関係機関のご支援、ご協力があったものであり深く感謝いたします。

2025 年度につきましても、去る 2 月 27 日に開催されました第 44 回理事会においてご承認いただきました事業計画に基づき、電波の利用に関する調査研究及び研究開発、標準規格の策定、コンサルティング業務をはじめとする諸事業を着実かつ積極的に推進したいと考えております。

Beyond 5G/6G の開発については、高度無線通信研究委員会において IMT-2030 の無線インタフェースの技術要件及び技術評価方法を検討し ITU-R への寄与を進め、また、昨年度設立された XG モバイル推進フォーラム (XGMF) において多くのテーマ毎のプロジェクトを実施するとともに諸外国との国際連携も推進していきます。

ITS 情報通信システムについては、自動運転をはじめとした ITS の候補周波数である 5.9GHz 帯における既存無線局の周波数移行可能性の検討に参画していくとともに、ITS 情報通信システム推進会議においては 5.9GHz 帯の V2X 技術等の開発に向けて実証実験用ガイドラインの更新や標準規格等の策定を実施していきます。

無線 LAN については、Wi-Fi7 の後継である IEEE802.11bn 等の次世代システムや周波数拡張に向けて総務省の情報通信審議会等における技術的条件の検討に積極的に寄与します。

地上 4K 放送等のテレビジョン放送の高度化については、総務省の制度化や放送機器の IP 化の進展を踏まえ放送システム、スタジオ設備の標準規格、技術資料の策定を進めてきたところですが、さらにオブジェクトベース音響などの国際標準化活動にも貢献していきます。

コンサルティング業務のうち照会相談業務については、携帯電話基地局と衛星地球局との間の共用調整業務（混信計算）に関し、昨年度開発した高度混信計算ツールにより陸上移動局等も含めた携帯電話システム全体からの混信計算に拡充するとともに、新たに28GHz帯における同業務も開始します。

また、ダイナミック周波数共用業務については、2.3GHz帯において今後も増大する5G携帯電話用無線局の運用に対し必要な事項の照会に的確かつ迅速に応じるとともに、同周波数帯における周波数共用の高度化、さらには今後のダイナミック周波数共用の候補周波数帯である26GHz帯及び40GHz帯について、総務省における調査検討と連携を図り、将来の業務実施を想定して課題の整理に務めます。

このほか、標準規格及び技術資料の策定、情報提供業務、講演会等の開催や年鑑、機関誌等の発行による普及啓発、ITU、3GPP、APT等の関連標準化機関・団体との連携・協力等の事業につきましても、昨年度と同様に推進いたします。

以上、新たな事業計画に基づき私ども役職員一丸となって業務を推進して参ります。
会員各位をはじめ皆様のますますのご健勝ご発展をお祈り申し上げます。

ARIBの動き

ITU-R WP7C 会合における宇宙天気センサに関する概要報告

1. 会合の概要

WP7C（Working Party 7C：7C作業部会）は、ITU-RのSG7（Study Group 7：第7研究委員会）の下に設置され、宇宙天気センサを含むリモートセンシングについて検討している専門家会合です。

日 程：2025年3月17日（月）～26日（水）

場 所：スイス・ジュネーブ（Web会議併用）

参加者：各国、各団体から約280名が参加（日本は、総務省基幹・衛星移動通信課電波利用分析官の糸将之氏を団長に18名が参加。当会から横山次長が参加。）

2. 宇宙天気センサに関する主要結果

太陽活動は、航空無線、電力網、通信・放送・測位システムなどの社会インフラに異常を発生させ、我々の社会経済活動に多大な影響を与える恐れがあります。太陽活動やその電離圏・磁気圏等への影響の観測は宇宙天気センサによって行われます。しかし、宇宙天気センサに用いられる周波数帯は、国際的な周波数使用の枠組みを定める無線通信規則に用意されておらず、保護するための国際的な基盤がないことが課題となっています。

このため、ITUでは、2027年に開催予定の世界無線通信会議（WRC-27）で受信専用の宇宙天気センサ用の周波数分配について審議することとなりました。WP7Cでは、WRC-27に向けて、この周波数分配に関する準備検討を行うこととしています。

今回WP7C会合では、受信専用の宇宙天気センサの保護基準について検討しました。ARIB

は、総務省の委託を受けて太陽電波スペクトル計と呼ばれる観測装置について調査し、今回合
合に、この観測装置を用いて 100MHz 以下の太陽電波を観測する場合の保護基準は、太陽電
波バースト現象に基づき定めることを提案しました。この提案は、新しい考え方であったため
時間を要するとして、2025 年 9 月の次回 WP7C 会合で改めて検討することとなりました。

3. 次回会合予定

次回 WP7C 会合は 2025 年 9 月 16 日～25 日に開催予定です。

ARIB 内会合（4 月 7 日～4 月 11 日）予定

4 月 9 日（水）：第 327 回業務委員会 Web 会議併用

4 月 9 日（水）：デジタル放送システム開発部会 地上放送高度化方式検討 TG

Web 会議併用

4 月 9 日（水）：スタジオ設備開発部会 音声品質評価法作業班（NHK 技研）

Web 会議併用

国際会合（4 月 7 日～4 月 11 日）予定

4 月 9 日（水）：FoBTV（Future of Broadcast Television）技術委員会

（NAB Show）ラスベガス

総務省などからのお知らせ

新世代モバイル通信システム委員会報告（案）に対する意見募集 －「新世代モバイル通信システムの技術的条件」のうち「第 5 世代移動 通信システムの技術的条件（26GHz 帯/40GHz 帯）」－

【令和 7 年 4 月 2 日発表】

情報通信審議会情報通信技術分科会新世代モバイル通信システム委員会（主査：森川博之 東
京大学大学院工学系研究科 教授）は、「新世代モバイル通信システムの技術的条件」のうち
「第 5 世代移動通信システムの技術的条件（26GHz 帯/40GHz 帯）」について新世代モバイル
通信システム委員会報告（案）として取りまとめましたので、令和 7 年 4 月 3 日（木）から同
年 5 月 7 日（水）までの間、意見を募集しています

詳細については[【令和 7 年 4 月 2 日の総務省報道資料】](#)をご覧ください。

技術戦略委員会第5次中間報告書（案）に対する意見募集
－新たな情報通信技術戦略の在り方－

【令和7年4月2日発表】

情報通信審議会情報通信技術分科会技術戦略委員会（主査：相田 仁 東京大学特命教授）は、
「新たな情報通信技術戦略の在り方」に関する第5次中間報告書（案）を取りまとめました。
本報告書（案）について、令和7年4月3日（木）から同年5月7日（水）までの間、意見を募集しています。

詳細については [【令和7年4月2日の総務省報道資料】](#) をご覧ください。



Association of **R**adio **I**ndustries and **B**usinesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

☎100-0013 東京都千代田区霞が関一丁目4番1号 日土地ビル11階
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<https://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp